

県民の幸せを第一に

先生や友達との信頼関係

子どもたちを笑顔にするために

事務長が語る熱い思い

私は長年、子どもの福祉に関わる業務に携わってきました。

学校の事務職員の業務は、教職員給与や校舎管理が一般的ですが、スクールバスの運行や厨房の管理など養護学校特有なことも行っています。

業務は多忙ですが、子ども達に挨拶や声かけをしたり、月に一度、子ども達が畑で採れた野菜を持参してくれる際に、手作りの名札でコミュニケーションをとるなど交流を楽しんでいます。

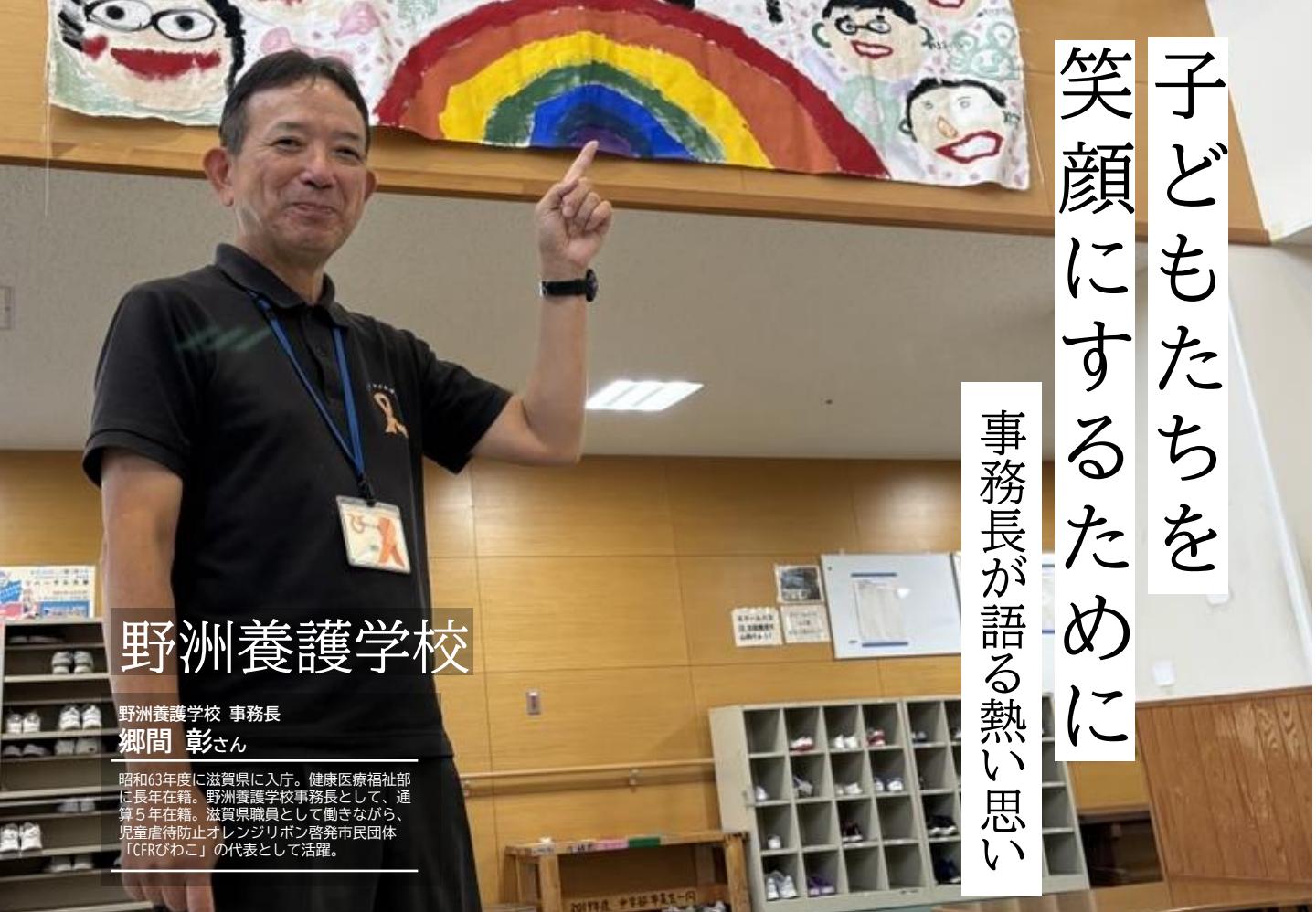
大規模校ならではの慣習を変える難しさがありました。が、学校環境をより良くするため、県内の養護学校では初めて自動販売機を導入し、子ども達の作品をラッピングし、学校の個性を反映させました。

一方「子ども虐待を防止したい」という強い思いから、16年前に市民団体（CFRびわこ）を創設し、児童虐待防止に関する活動もしています。学校事務を通じて教職員のサポートや設備改善という事務の仕事が、子ども達の教育環境を良くすると信じてきました。県職員の皆さんには、「県民の幸せ」を考える視点で働いてもらえたなら嬉しいです。■

野洲養護学校

野洲養護学校 事務長
郷間 彰さん

昭和63年度に滋賀県に入庁。健康医療福祉部に長年在籍。野洲養護学校事務長として、通算5年在籍。滋賀県職員として働きながら、児童虐待防止オレンジリボン啓発市民団体「CFRびわこ」の代表として活躍。



県内の養護学校で初

飲料自動販売機を設置

子ども達が授業の一環で購入体験をしたり、熱中症の対策になつたりと役立っている。子どもが視線入力アプリで描いた作品等をラッピングしているのも特徴。



最後まで細やかな配慮

下校の時間

下校はバスで帰宅する子ども、放課後デイに行く子ども、自分で電車に乗って帰る子ども等に分かれる。子どもたちが安全に下校できるよう工夫されている。



小学部 ふれあいあそび

友達や先生と虫取り。最初は虫を触れなかった子も今では得意に。入学後、様々な取り組みを通して友達と仲良くできるようになつたりと日々成長している。